

● 山形県山形市（山形県議会）（7月22日）

◆調査事項「高規格幹線道路における救急車退出路について」

・事業概要

救急車退出路とは、山形自動車道に近接する「山形県立中央病院」へ救急患者を迅速に搬送するために山形自動車道に設置された救急車専用の退出路である。一般道を通らず、山形自動車道に接する山形県立保険医療大学の外周道路を経由して山形県立中央病院に搬送されている。

■従来の搬送ルートと救急車退出路利用の搬送ルート



国土交通省 ホームページより引用

・経緯

- ・山形県立中央病院の郊外への移転(平成13年5月)
- ・山形自動車道に近接するものの最寄りのインターチェンジである山形北I.C.からは遠回り
- ・山形道づくり評価研究会で救急車退出路の建設構想(研究会代表 山形大学 柴田洋雄教授)
- ・東北中央自動車道の供用(平成14年9月)によりさらなる利便性向上が見込まれるため、東北で初めて救急車退出路を整備

完成：平成14年11月9日

・事業費

約6,820万円

(内訳) 敷地の境界で、事業費を按分

旧道路公団：約6,000万円 山形自動車道の法面の法尻まで(ゲート設置費用含む)

山形県：約820万円 法尻から先(山形県立保健医療大学の敷地内の整備等)

・ 事業効果

・ 約 10 分の時間短縮

救急車搬出時間 30 分圏内： 8 市町→11 市町 45 万 3000 人→54 万人
60 分圏内： 17 市町→20 市町 64 万 1000 人→77 万 2000 人
(平成 13 年時点での人口)

・ 利用状況

年度	回数
平成 14 年度 (約 5 ヶ月間)	195 回
平成 15 年度	611 回
平成 16 年度	643 回
平成 17 年度	703 回
平成 18 年度	684 回
平成 19 年度	614 回
平成 20 年度	668 回
平成 21 年度	772 回



・ 委員の感想

○ 完成から 6 ヶ月間の平均では二日に 3 回弱と激増している。冬場も大いに活躍しており、時間短縮効果と一般道を経由しない直結効果で、遠くからも安心して搬送できる。救急隊員にも大好評で時間短縮+振動減少で効果も 2 倍となっている。

東広島市も山陽道を利用して同様の建設を予定しており、早期建設が楽しみである。

○ 高規格幹線道路からの救急車退出路専用道は、救急患者を迅速に搬送する上で、時間短縮を初め、振動やゆれ等も傷病者の負担軽減に大きな効果を与えておられます。地域的な道路環境や、三次医療機関の配置で同様な整備は無理と感じますが、本市でも、高速道路からの搬入、搬出専用道は、早急に取り組む課題だと、視察研修する中で、強く印象付けられました。

○ 山形の場合、搬送（受け入れ）用のみの退出路で、事業費が比較的軽く済んだことが、スピーディーな設置になったと思うが、何よりも“人命の尊さ”に対する認識がベースと思う。

搬入・搬出に必要な上下線各 2 施設。“いのちとうとし”の観点から、早期、着工が必要と改めて痛感しました。

○ 我が市で構想している、高速道路と医療センターの連携では、入退出の機能が必要であり、費用試算は参考になるが、医療機関とのあり方と立地条件のあり方に相違があり、更に検討を要すると思えた。

○ 退出路が 1 ヶ所という事と、公団の費用負担が多く、公団、県との関係もスムーズに運んだと想える。東広島で取り組むには、4 ヶ所の退出路が必要との事だが、ゲートを 2 ヶ所に結び付ける工夫も必要

○ 高規格幹線道路を利用し退出路設置により様変わりしたことは、素晴らしいと思った。問題は、本市の場合 3 次救急医療機関がないことで、どうにもこの様な対応がしにくいのではと思った。まずは、3 次救急医療機関がいるのでは・・・